

馬産地ライター村本浩平の 2018 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 4 | 8.21 [火] ▶ 9.27 [木] 開催分



8.30
[木]

ラブリーデイ賞
【リリーカップ [H3]】

2010年産まれで、安平町・ノーザンファームの生産馬。父はキングカメハメハ、母はポップコーンジャズ(母の父ダンスインザダーク)。現役時は日本で31戦9勝、香港で2戦。2歳時にメイクデビューと野路菊Sと連勝し、京王杯2歳Sでも2着と2歳戦線をわかせたラブリーデイでしたが、競走馬としての全盛期を迎えたのは5歳時でした。GⅢ京都金杯をレコードで勝利すると、続くGⅡ京都金杯も勝利。その勢いのままに臨んだ宝塚記念では、6度目挑戦でついにGⅠウイナーとなります。秋緒戦となるGⅡ京都大賞典を制して挑んだGⅠ天皇賞・秋も優勝。この年だけで古馬重賞で6勝をあげる活躍ぶりで、2015年のJRA賞最優秀4歳以上牡馬にも選出されました。2017年シーズンから日高町のブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養。その年には138頭に配合を行っており、初年度産駒は2020年にデビューを迎えます。

9.12
[水]

クリエイターⅡ賞
【旭岳賞 [H3]】

2013年産まれの米国産馬。父はTapit、母はMorena(母の父Privately Held)。現役時は米国で12戦3勝。米国三冠レースの最終戦となるGⅠベルモントSでは、日本から遠征してきたラニを退けて優勝を果たしたクリエイターⅡ。しかしながら2歳時は4戦して未勝利で、初勝利をあげたのは3歳の2月。初GⅠ勝利はその2ヶ月後に行われたアーカンソーダービーと、一気に世代の頂点へと駆け上がっていきました。その年の米国三冠ウイナーが輸入されるというセンセーショナルなエピソードもさることながら、父は北米のトップサイアーであるTapit、母Morenaはペルーを代表する名牝という血統背景も、種牡馬としてのセールスポイントに繋がっています。現役引退後の2017年シーズンから、新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養。その年には85頭の繁殖牝馬を集めました。世界からも注目を集める初年度産駒は2020年にデビューを迎えます。

9.13
[木]

エスケンデレヤ賞
【イノセントカップ [H3]】

2007年産まれの米国産馬。父はGiant's Causeway、母はAldebaran Light(母の父Seattle Slew)。現役時は米国で6戦4勝。3歳時のGⅡファウンテンオヴユースSでは、2着馬に8馬身半差を付けて初重賞制覇をあげると、1番人気に支持されたGⅠウッドメモリアルSも2着馬に9馬身3/4差を付ける圧勝で、一躍、米国三冠戦線の主役に躍り出ます。しかしながら、一冠目のGⅠケンタッキーダービーを前に故障を発症して現役を引退し、次の年から米国で種牡馬として繋養。2016年シーズンからは、新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場に繋養地を移します。海外に残してきた産駒ではMor SpiritがGⅠメトロポリタンHを勝利するなど、重賞馬が続々と誕生。繋養初年度は115頭、2年目には45頭の繁殖牝馬を集めています。セリ市場に上場されてきた初年度産駒たちにも父譲りの好馬体が評価され、活発な取引が行われていました。

9.20
[木]

バゴ賞
【フローラルカップ [H3]】

2001年産まれの仏国産馬。父はNashwan、母はMoonlight's Box(母の父Nureyev)。現役時は仏国、英国、愛国、米国、日本で16戦8勝。世界各国で優れたパフォーマンスを残した身体能力の高さだけでなく、2歳のデビューから3歳にかけてGⅠ3連勝を含む6連勝と、仕上がりの良さも証明。その一方で3歳時のGⅠ凱旋門賞では芝2,400mもこなすなど、距離を問わない活躍を見せたのがバゴです。現役引退後の2006年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養。初年度産駒たちは父の万能ぶりを証明するかのような活躍を続け、オウケンサクラがGⅢフラワーCを、ビッグウィークがGⅠ菊花賞を勝利します。近年ではクリスマス(GⅢ函館2歳S)、タガノアガザル(GⅢファルコンS)といった芝短距離の重賞馬、トロワボヌール(GⅢクイーン賞2回、GⅢスパーキングレディー)のようなダートでの活躍馬も誕生しています。

9.27
[木]

ビッグアーサー賞
【道営スプリント [H2]】

新種牡馬

2011年産まれで、浦河町・バンブー牧場の生産馬。父サクラバクシンオー、母シヤボナ(母の父Kingmambo)。現役時は日本、香港で15戦8勝。デビューは3歳の4月と遅くなりましたが、そこから破竹の5連勝でオープン入り。その後はGⅢ北九州記念で2着、GⅢ京阪杯でも2着など、重賞でも好走を繰り返していきます。初めてのGⅠ挑戦となった高松宮記念は、重賞未勝利ながらも1番人気の人気を集め、その期待に答えて快勝。1分6秒8の時計は中京競馬場芝1,200mのコースレコードともなりました。その後はGⅡセントウルSでも優勝を果たしています。現役引退後の2018年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養。卓越したスピード能力に加え、近年、生産界にその数を増やしてきたサンデーサイレンスを含まない血統背景が高く評価され、繋養初年度から160頭を越える繁殖牝馬を集める人気ぶりです。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンプリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

